

福岡教区2019年の目標 「信じる喜びから伝える喜びへ」

休日とミサ



主任司祭 遠山満

皆さんは、休日をどのように過ごされているでしょうか。多くの皆さんにとって休日は、体を休める大切な日だと思います。その点で、休日は、多くの方にとって、体を休め、仕事の為にエネルギーを充填する日とも言えるかもしれません。しかし、子供達にとって休日は、体を休める日と言うより、遊びに出かけたい日です。家族にとって、休日をどのように過ごすかは、一つの課題になるのではないのでしょうか。

もう一つ、休日に関して、誰かが、お父さんの為に休日のスケジュールを組んでくれたとします。午前9時ゴルフ、12時半昼食、午後2時スーパー銭湯、午後4時公園散歩、午後6時夕食、午後7時半観劇、午後10時半帰宅。例えば、以上のような計画を立てて、お父さんの休日を充実したものにしてあげようとしても、お父さんは、恐らく帰宅した時、ふらふらになっている事でしょう。これは、子供でも同じです。スケジュールを綿密に建ててあげて、それに沿って休日を過ごせるようにしてあげても、楽しくないのではないかと思います。それは普段から皆、スケジュールに追われる生活をしているからです。

それでは、休日の本質は、どのようなものなのでしょう。それは、私達に与えられている自由を楽しむと言う事ではないかと思います。つまり休日は、私達に与えられている神の子の自由を、謳歌する日です。

他方、休日が、自由を謳歌する日であるならば、何故、私達はミサに行く事を義務として負わされているのでしょうか。それは、私達が、人生の目的を見失わない為です。私達の人生の目的は、永遠の命に入る事、永遠に神様と共に過ごす世界に入る事です。それは、永遠の安息に与る事とも言換える事ができます。私達の休日は、永遠の安息に与る前に、私達がこの世で体験する、小さな安息です。それゆえ、休日の一部分を神様と過ごす時間に宛て、残りの部分で、神の子として自由を謳歌するようにするのです。

パウロは、ガラテヤの信徒への手紙の中で、次のように言っています。「兄弟達、あなた方は、自由を得る為に召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい」(5・13)。

私達に与えられている自由を、ただ自分の自由を謳歌する為に用いるのではなく、永遠の命を黙想する為、また兄弟姉妹への奉仕の為にも用いて行く事ができますよう、祈って参りましょう。

カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2019年7月7日（日）11：40～12：30

開催場所：信徒会館ホール 司会：畠山 書記：牧山

＋始めの祈り

1. 笹丘小教区信者会運営規約について

川原会長より規約のたたき台が参加者に配布された。今後9月、10月、11月の拡大信者会及び役員会で検討する。拡大信者会に参加していない方からも意見を求め、来年1月には全世帯に案を配布し総会に諮る予定。総会欠席者には委任状の提出を求める。規約案のポイントとして、運営組織にチームリーダー会を設置し、チーム間で横の連携を図っていかうとしている。9月の拡大信者会までに各自案に目を通していただき、検討を進めていきたいとの説明が会長よりされた。

質問：今後拡大信者会は行わないのか？

回答：来年の総会で承認されてからの話になるが、拡大信者会は運営組織から外れて、チームリーダー会で話し合うことになる。それまでは今まで通り拡大信者会で話し合う。教会ニュース6月号に「小教区規約・一人一役取り組みスケジュール」が載っているので参考にして欲しい。（川原会長）

2. その他

(1) 教会敷地内に不審者あり。水道が出しっ放しになっていたことがあった。対策として信徒会館外にある流しの水道蛇口を外し事務所で保管している。

質問：聖堂内の献金箱は平日も置いたままにしているのか。

回答：維持費の箱は土日以外置いていないが、自由献金の箱は平日も置いたままにしている。聖堂は祈りの場として開かれており日中施錠するわけにいかないが夜9時には施錠している。

(2) 今後の予定

- ・7/14（日）福島支援「博多にきんしゃい6」実行委員から協力依頼の話がある。
- ・7/16（火）福岡教区創立記念日 8年後に百周年を迎える 教区にも目を向けましょう。
- ・8/2（金）博多にきんしゃい6 笹丘で歓迎納涼祭
- ・8/4（日）聖母被昇天前の大掃除
- ・8/31（土）アウグスチノ祭 遠山神父様誕生会
- ・9/1（日）拡大信者会

(3) お願い

- ・堅信式が10/13（日）に予定されていますが、求道者に同伴していただける方がおられましたらお願いします。（遠山神父）

＋終わりの祈り

みんなで「小教区規約作り」に取り組みましょう

～ 同床異夢ではなく、同床同夢のうちに～

去る5月に名古屋教区の松浦悟郎司教様の「証し人になろう」という講演を聞く機会に恵まれました。この講演で一番心に残っているのは「同床異夢」という言葉。司教様は聖書の次の箇所を手掛かりに「同床異夢」について語られました。

放蕩息子のたとえ（マタイ15章11節から32節）

父の家に共に住みながら、父の思いを共有することができず、父の心とは異なり、父の喜びを自分の喜びとすることなく、父の悲しみを自分の悲しみとすることなく、文句の一つも言わずに、ただひたすら父に仕え、父に従ってきた兄・・・同床異夢

ところで、今年度私たちは、小教区創立依頼初めての小教区の「規約」作りに取り組もうとしています。「規約作り」は今年度の小教区総会で提案させていただき、六月の役員会、七月の拡大信者会に規約（私案）を提案させていただきました。規約は①小教区の形を表すもの②小教区の目指すものを表すものだと思います。洗礼を受け同じ小教区に属する者として教会生活を営みながら、お互いのことを思いやり、ともに神の国の建設を目指すものとして「同床異夢」ではなく、「同床同夢」のうちにできるだけ小教区みなさんの総意のもとでの「規約」が出来ればと思います。

それから、規約作りと並行して進めて行くのが「一人一役」の新たな再出発です。「一人一役」は私のミスリードで活動は具体的には進んでいませんでした。申し訳なく思っています。しかし、今回提案の規約私案には、「一人一役」のそれぞれのチームの代表者会を規定していますので、各チームが動き出すことが必要です。これからの「一人一役」は各自が自分に出来ることで（doing）、あるいは何も出来なくてもキリスト者としての生き方で（being）教会とつながり、共同体を支えましょう。今後は皆さんからのご意見、提案もいただきながら、役員会、拡大信者会等で検討を進め、来年の総会で決定していく予定です。お互いの絆を深めながら、喜びのうちにキリストを証しする共同体に成長することができるよう、お互いのために祈りながらともに頑張りましょう。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

2019. 7. 12 信者会会長 川原義広



匿名希望

父は私が小学生の頃から(父自身は40代の前半頃から)外出するときにはいつもサングラスをかけていた。何も知らない私はことあるごとに「お父さん、サングラス似合わない。おかしか」と父に言った。父はその度に「そうか、似合わないか」と苦笑するだけだった。そのサングラスの意味を私が知ったのは、大人になってからだった。40代の初めから、父は白内障を患っていたのだ。被爆直後の街を二日間歩き廻ったせいだったのかはわからない。しかし、子どもだったとはいえ、知らなかったとはいえ、何という心無いことを言ったのだろうと、今でも私は父に対し申し訳ない気持ちでいっぱいになる。

原爆落下から数日後、父は体調を崩した。激しい下痢と強い倦怠感で急激に衰弱していった。髪の毛が抜け落ち、食事も水も摂れなくなり寝たきりとなった。祖母はそんな状態の次男におむつをあて、長男に背負わせて所属する飽の浦教会に毎日通い、祈った。やがて少しずつ次男(父)は回復していった。

終戦後、父は学校に戻らず三菱造船所で働き始めた。後に、なぜ学校を辞めたのかと聞いた私に「同級生はほとんどが原爆で死んだけん、おだけ学校に行ってもだいいおらんけんな」と父は言った。

被爆から50年近く経った頃に、伯父(父の長兄)の被爆体験が地元の新聞に掲載され、大きな反響を呼んだ。従姉妹達からの知らせでその記事を読んだ父は、「兄貴はだいいにも言うなって言うたくせに!」と怒った。

伯父がなぜ体験を公に述べる気になったのかはわからないが、従姉妹から新聞に投稿する前に次男の〇神父に相談したらしいということを私は聞いた。

平成15年1月、伯父は亡くなった。大浦教会での葬儀ミサの直前、私の父は倒れた。末期の肺癌だった。救急車でフランススコ病院に運ばれる途中、「兄貴の葬式に出らんで死なれん!」と、散々周りを困らせた。

しばらく経って、末期の肺癌であることと、治療方法は無いことを主治医から父に伝えてもらった。医師は、これから最期の時まで何かしてほしいことはありますかと父に言った。父は少し考えて「私は若かころからずうと痔でした」と言った。「こいがもう痛くて痛くてつらかとですたい。長年私ば苦しめよった痔と、死ぬ前に別れたかとです。きれいか尻になって死にたかとです」と言った。医師はぽかんとし、その場にいた私と姉は混乱した。私は慌てて父に「お父さん、先生は今これからどうしたいかって訊いとるやろ、痔のことなんて・・・」「やかましか!おまえは黙っとけ!おいはいましえんしえいと話しよつたい!」近くで記録を取っていた看護師さんの肩が小刻みに震えていた。もう何を言っ

でも無駄だった。フランシスコ病院の先生はとても良い方だった。体力があるうちに、すぐに痔の手術をしてくれた。感謝に絶えない。

平成15年3月20日、私の父、知(さとる)はきれいな尻になって75歳の生涯を終えた。

最期に言ったことばは「高校野球はまだありよらんとか」だった。【次回最終回】



桑原篤史神学生ありがとうございました！



聖アウグスチノ修道会に属するマキシミアノ・マリア・コルベ桑原篤史神学生の笹丘教会での司牧実習(5月7日~7月14日)が終了した。

桑原篤史神学生に今後の予定などをお伺いしました。

1. 今後のご予定は？

7月16日に東京へ行き、家族とともに時間を過ごした後、7月30日にアメリカ合衆国のフィラデルフィア市へ出発します。

2. 笹丘教会の印象はいかがでしたか？

笹丘教会は信徒の方々が率先して教会のことを行っている活発な教会だと感じました。教会で子供たちが楽しそうに過ごしていることが一番心象に残っています。

3. アメリカ、その他日本以外の国でも司牧実習をされるのですか？

アメリカのシカゴでは、9月から神学校での勉強とともに、Interfaith Community for Detained Immigrants (移民移住者のための異端宗教共同体)という場所で、アメリカ移民後の様々な問題で困難に直面している個人および共同体に対応する活動をしている組織で司牧実習も行う予定です。

4. 私たち信者、子供たちに一言いただけますか？

笹丘教会の皆様、短い間でしたがお世話になりました。皆様のためにもお祈りしています。共に祈りで繋がっていきましょう。

十 幼児洗礼 (6月9日)

～～ 聖霊降臨の主日 ～～



「聖霊来り給え 天より御光の輝きを放ち給え——」

聖母よ、聖霊の花嫁、すべての恩恵の仲介者よ、孤独な人、迫害で苦しんでいる人、絶望しかけている人など、心に傷をもって苦しんでいる全ての人のためにあなたに願います。どうか彼ら自身の十字架の道行で、聖霊からの慰めと助けを実感させてください。そうして彼らが、聖霊の愛の力によって、自身の苦しみを限りなく尊いイエスの御苦しみと一致させることができますように。



ヨゼフ川原敢太 (かんだ) ちゃん おめでとうございます!



ご家族皆で誓いを立てます
敢太ちゃんが「ハイ……」偶然?



洗礼式



洗礼のお恵みを受けて

聖霊降臨の主日に我が家の次男、敢太の洗礼式を執り行って頂きました。式の間は水をかけて頂いている時も含め堂々としたもので、無事に式を終えることが出来ました。洗礼名はいろいろと悩んだ末に、代父をお願いした父と同じヨゼフ。決めた後で知ったのですが父の祖父もヨゼフだったそうで、父も次男だし運命だったのかなあと勝手に思った次第です(笑)。これから神様の子どもとして成長していく敢太を温かく見守って頂いて、お祈り頂けると幸いです。宜しく願います。川原 廣太・香里

編集後記

梅雨の時期、各地で被害も出ている。

2018年、タイで豪雨のため水位が上昇した洞窟に閉じ込められたサッカー少年たちの救出劇はまだ記憶に新しい。10日間救出を待つ間、彼らは瞑想をやっていたそうだ。今ふうには言えば「マインドフルネス」という、呼吸に集中して「今、ここ」だけに意識を向ける。グーグルやヤフーといった最先端企業も採用しているそうだ。

私も、複数人数で輪になってのマインドフルネスを体験したことがあるが、案外時間が経つのを短く感じ、脳のゴミが一掃されるようで、実際認知症予防にもなるらしいと聞き、そうかもしれないと納得した。

マインドフルネスは一呼吸でもいいそうだ。それが神さまへの祈りであったらなおのこと。祈りの足りない自分を省み、「今、ここ」の意識を神様に向ける時間を増やそうと思った。(F.K)